学校番号	1005

令和２年度　芸術科［美術］

教科	芸術	科目	美術Ⅲ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	「高校美術３」　（日本文教出版）						
副教材等	なし						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

美術の授業の集大成として、美術Ⅰ、美術Ⅱで学んだ表現方法や創造性を生かし、密度の高い表現活動に挑戦します。コンクール展などへの出品をめざしてサイズの大きい作品を制作したり、会場への作品搬入・展示や展覧会の運営など校外での活動も行います。また、本格的な石膏デッサンにも取り組み表現技法を磨きます。

２　学習の到達目標

美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情と美術文化を尊重する態度を育てるとともに、感性と美意識を磨き、個性豊かな美術の能力を高める。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:美術への関心・意欲・態度	b:発想や構想の能力	c:創造的な技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法に関心をもち、美術文化を尊重し、主体的に個性豊かな表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。	感性や想像力を働かせて、独創的な主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、主題に合った表現方法を工夫し、個性を生かして創造的に表している。	美術作品などの表現の工夫や国際理解に果たす美術の役割、美術文化などの理解を一層深め、自己の価値観や美意識を働かせて、そのよさや美しさを創造的に味わっている。
評価方法	制作や活動の記録 ワークシート	コンセプトシート アイデアスケッチや下絵 制作途中の作品 作品	制作途中の作品 作品	ワークシート 発表や発言 活動の様子

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	オリエンテーション	【デザイン】【鑑賞】 「スクラッププブッキング」 一人一冊ずつスクラッププブックを渡し、一年間をかけて目に留まった写真や切り抜きなどを貼り付けて収集する。 作品制作時のアイデアの資料として、また、自分の興味がどこにあるのかを知る手掛かりとしてなどに利用する。 3学期の成績に加える。 年に数回、途中経過を皆に披露し、感想を述べ合う。	○	○		○	a:身の回りの雑誌やリーフレットなど、普段何気なく見ている印刷物に美的関心を持ち、周囲のあらゆる物に美的要素を見つけようと意識して見るようにしている。 ｂ:スクラッププブック自身が作品となるよう写真などを収集し、貼りつけ方にも工夫をこらして美しく仕上げようとしている。 d:スクラップしたものを見返したり、友達のものを見せてもらうなどして、興味・関心の多様性を感じたり作品のヒントをそこから得るなど積極的に鑑賞している。	制作途中の作品 発表や発言 作品
	大作に挑戦する「油彩」	【絵画・彫刻】 夏休みの『高校展』出品を目標に、50号の油絵制作を行う。 『高校展』を鑑賞しレポートにまとめる。	○	○	○	○	a:コンクール展への出品に関心を持ち、人に見せる事を想定した作品制作を行おうとしている。 b:　今まで見たり感じたりしたことから主題を生成し、心象風景を見える形に取り出して主題に合った表現の構想を練っている。 c:　油絵の具の特性を知り、自分の表現したいイメージに形を与えるための表現方法を工夫して主題の見せ方を追求している。 ｄ:同年代の生徒の作品を主体的に鑑賞することで、制作のヒントや主題の生成の手助けとしたり、今後の制作に意欲を高めたりしている。	コンセプトシート アイデアスケッチや下絵 制作の様子 制作途中の作品 作品 ワークシート

2学期	立体コラージュ「記憶の形」	【絵画・彫刻】【デザイン】 箱の中にコラージュの技法を用いて三次元の空間を表現する。 木片や貝殻、紐やセロファンなどの素材、おもちゃなど具体的な形を持った小物、紙粘土などを使って新たに作り出したオブジェなどを組み合わせて独創的な世界を作る。 互いの作品を鑑賞し、感想を述べ合ったりレポートにまとめたりする。	○	○		○	a:自分自身の中にある懐かしさや喜び、悲しみなどの記憶を箱の中に閉じ込め、表現することに関心を持ち、そのために必要な素材やオブジェをそのものの持つイメージやメッセージを感じ取って収集している。 b:素材やオブジェの持つイメージやメッセージを利用したり組み合わせたりすることで、新たなイメージが生み出され、独創的な世界が作り出されることに気が付き、表現に工夫をしている。 d:互いの作品を鑑賞する中で、友達が表現した記憶の世界をたどり、思いを共有し、自分のものとは違うイメージの世界を積極的に味わっている。	制作の様子 制作途中の作品 作品 鑑賞レポート
3学期	日本美術「床の間を飾る」	【絵画・彫刻】 床の間を飾ることを想定した絵画作品を制作する。 色紙または色紙大の半紙に花鳥風月など日本の伝統的なテーマにこだわらず自由に表現する。 墨汁と筆、顔料を用いた色彩など日本画の伝統的な画材や技法を用いる。 書との融合も試みる。 表装する。	○	○	○		a:自然物の美しさと日本的な絵画表現に関心を持ち、個性豊かな表現を試みようとしている。 b:伝統的な写生の技法を踏襲しつつ、感性を働かせて独創的な主題を生成し、構想を練っている。 c:今まで学んできた伝統的な日本画の技法に加え、水墨画や書の技能も身に付けて主題に合った表現方法を工夫して表している。	制作途中の作品 作品 活動の様子

※　表中の観点について　a:美術への関心・意欲・態度　b:発想や構想の能力
c:創造的な技能　d:鑑賞の能力

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。